

里村穰の国語科（第4学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

国語科は、言語活動を通して、実生活で生きてはたらく国語の能力の育成に重点を置く。特に、論理的に思考し表現する能力の育成を重視し、指導事項を配列している。第3学年及び第4学年の「読むこと」では、音読、文章解釈の後に「自分の考えをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、引用や要約をすること」（指導事項エ：自分の考えの形成）とある。この指導事項は、「読むこと」における育成すべき能力の一つである。

この能力を育むため本研究では、**必要な情報を関連付けて読み、自分の考えをまとめる子ども**を目指す。「必要な情報を関連付けて読む」とは、目的に応じて文章の叙述から自分の考えに必要な情報を判断している状態である。「自分の考えをまとめる」とは、文章の叙述から必要だと判断した情報を引用や要約して根拠とし、学習課題に対する自分の考えを書き表している状態である。

これまでの「読むこと」では、目的に応じて自分に必要な情報を判断できない子どもや、自分に必要な情報を根拠として取り入れ自分の考えをまとめられない子どもの姿があった。要因は、次の2点である。1点目は、「この課題を解決するために〇〇ということが必要だ」といった視点を明確にさせていないことである。2点目は、「これらの言葉からどんなことが考えられるか」といった自分に必要な情報の関連性を見いださせていないことである。

そこで、目指す子どもの具現を図るために、次の2点の改善を行う。1点目は、課題解決の見通しをもたせることである。そのために、二次での読書活動の目的を転換させる言語活動（第三者からの自分の考えを求める依頼）を三次で提示する。提示された言語活動に対する問いから学習課題を設定させ、この学習課題を解決するための内容と方法とを問う。解決するための内容が、三次での読書活動における視点となる。2点目は、自分の考えを説明させることである。そのために、三次で提示する言語活動の中に自分の考えを求める内容を組み込む。こうすることで、必要だと判断した情報の関連性を考えさせ、自分に必要な情報を根拠として取り入れた自分の考えを表出させる。

2 本研究で育む資質・能力

①知識や技能	②ツール活用能力	③見方や考え方	④態度
○必要な部分について文章の要点や細かい点に注意して読む ○目的に応じて必要な情報を引用や要約する	○ツールを用いて、必要だと判断した情報の関連性を考える	○事例として挙げられている事実等から、自分に必要な情報を整理し、結論付ける	○必要な情報を求めて自ら文章を読む ○引用部分をかぎ(「」)でくくる、出典を明示するなど、著作権を尊重しようとする

3 主張する働き掛け

教材文は、他教科等で学習した内容に関連のある題材を採り上げている文章とする。他教科等で育まれた資質・能力を発揮しながら、本研究で設定した資質・能力を育むためである。

一次では、文章の題材に対する意識付けを図り、文章を読む目的をもたせる。そして、子どもの題材に対する意識や読む目的を基に、「くらしの中の〇〇について文章を読んで考えよう」といった言語活動を設定する。2次では、音読と文章解釈を通して、文章理解を図る。

文章の題材に対する意識をもって文章を読み、文章を理解している子どもに、3次で次のように働き掛ける。

働き掛け1

第三者からの依頼という形で言語活動を提示する。

問いをもたせ、学習課題をつくらせるための働き掛けである。

子どもに、第三者からの依頼を動画で提示する。依頼内容は、次の3つの要件を組み込む(①他教科等との学習に関連がある②不明確な部分を残す③自分の考えの説明を求める)。他教科等の学習内容と関連のある依頼を提示することで、子どもに他教科等で育んだ資質・能力を発揮させる。依頼内容に不明確な部分を残すことで、言語活動を行うにあたっての疑問を感じさせる。そして、自分の考えの説明を求める内容を組み込むことで、自分の考えを伝える必然性を生むので

ある。こうすることで、子どもは、他教科等で育んだ資質・能力を發揮しながら、「この活動を行うには、どうすればよいのか」といった問いをもち、この問いから学習課題を設定する。

働き掛け2

何が分かれば学習課題に対して考えられるかと、そのための方法を問う。

読む目的と視点を明確にさせ、資質・能力④を發揮させるための働き掛けである。

学習課題を設定した子どもに、「何が分かれば学習課題に対して考えられるか」「そのためには何をすればいいか」と問う。「何が分かれば」と問うことで読む視点を明確にさせ、そのための方法を問うことで文章を読む目的を明確にさせる。こうすることで、子どもは、「〇〇が分かれば、考えることができる」などと、読む視点を明確にする。そのための方法を問われることで、**資質・能力④（必要な情報を求めて自ら文章を読む）**を發揮し、文章を読もうとする。

働き掛け3

必要だと判断した情報を付箋紙に書き出させる。

資質・能力①を發揮させ、文章から必要な情報を取り出させるための働き掛けである。

文章を読む目的と視点を明確にした子どもに、「文章を読んで、学習課題に対して考えるために必要だと思ったことを付箋紙に書き出そう」と指示する。このように指示することで、明確にした目的と視点とで文章を読ませる。こうすることで、子どもは、**資質・能力①（必要な部分について文章の要点や細かい点に注意して読む）**を發揮しながら、教材文や関連読書材を読む。そして、必要だと判断した情報を付箋紙に書き出していく。

働き掛け4

話し合う目的（依頼した第三者に向けて説明するため）を意識付けて班ごとに検討させ、結論を問う。

資質・能力②③を發揮させ、必要な情報の関連性を見いださせるための働き掛けである。

まず、子どもに、「依頼した第三者に向けて説明することができるように、学習課題について話し合おう」と指示する。依頼した第三者に向けて説明する目的を意識させて話し合わせることで、「どうしてそう考えるのか」という理由を考えさせる。ここで考える理由は、必要だと判断した情報を関連付けて見いだされる。子どもは、**資質・能力②（ツールを用いて、必要だと判断した情報の関連性を考える）**を發揮して、付箋紙に書き出した情報を関連付けながら検討していく。

次に、子どもに、学習課題についての結論を問う。子どもは、**資質・能力③（必要な情報を整理し、結論付ける）**を發揮して、学習課題に対して結論付ける。

発揮した資質・能力の自覚を促す働き掛け

学習課題に対する自分の考えと、そのように考えた理由を問う。

自分の考えを表出させ、資質・能力を發揮したことを自覚させるための働き掛けである。

次の2点（①学習課題に対する自分の考え②そのように考えた理由）を提示し、記述させる。子どもは、必要だと判断した情報を根拠として**自分の考えをまとめる子ども（C_n）**となる。また、「必要な言葉を探して読み、必要な言葉をつなげて考えたからだ」などと、発揮した資質・能力を自覚する。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC_nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を發揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 資質・能力の自覚を促す働き掛けを受けて書き表した自分の考えの記述内容から検証する。
- ② 働き掛け2～4を受けての発言や様子、ワークシートの記述から検証する。
- ③ 振り返りの記述内容から検証する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業（6月） 「くらしについて考えよう①（教材名：色さいとくらし）」（6時間）
- (2) 中間検討会（9月） 「くらしについて考えよう②（教材名：くらしの中の和と洋）」（6時間）
- (3) 初等教育研究会（2月） 「くらしについて考えよう③（教材名：「ゆめのロボット」を作る）」（8時間）